

野生動物との共生のために

リサーチの背景

豊かな自然が広がる日本には様々な野生動物が生息している。しかし、近年は人里での野生動物、特にクマの出没が目立つ。2019年には札幌市の住宅地にヒグマが出没し、のちに駆除された。北海道だけでなく、大阪府や神奈川県など都市部にも出没が相次いでいるが、人間とクマとの生活に何が起きているのだろうか。

作成者: N. S.

レポートに関する
お問い合わせ:
03-5542-5300
info@sfinter.com

日本に生息するクマ

▼ ヒグマ



(左: 出典: 大雪山国立公園連絡協議会

右: 出典: 環境省 「クマと共存するために」)

▼ ツキノワグマ



クマの活動範囲の変化

日本には、北海道の約半分の地域に生息するヒグマと、東北地方から中国地方までと四国の限られた地域に生息するツキノワグマの二種類がいる。従来、クマとは山に入らなければ滅多に出会うことはないと思われていた。しかし、近年では人里に降りてくるが増え、農作物や人への被害が多くなってきている。かつては人間と共生していた動物が、いまや物理的な被害をもたらす害獣として駆除せざるを得ない状況となっている。

予期せぬ出会いはなぜ起きるのか

人間とクマが遭遇してしまう原因は、大きく分けて二つある。一つは森林減少と気候変動だ。主食であるブナやドングリが不作になり、山で十分に食べ物を摂ることができない若いクマが人里に降りてきてしまう。また、暖冬の影響で冬眠できない個体も出ているという。

もう一つは、クマと人間の生活圏の境界が曖昧になっていることが挙げられる。以前は下草刈りや木の間伐など、里山は適度に人の手が入っていた。しかし、高齢化や過疎化が進み山の手入れが疎かになるにつれ、境界線が不明瞭になってしまった。その結果が、人里にクマが現れるという現状である。クマたちは、農作物や家畜を荒らすことでエサが簡単に手に入ることを覚えてしまったのである。

クマによる被害



牧場の飼料に誘引されたツキノワグマ



民家屋根裏に営巣した蜂の巣を狙いに侵入したツキノワグマが踏み抜いた天井

(出典: 農林水産省 「野生動物による被害対策」)

共生のために私たちができること

クマ同様、シカやイノシシ、サルも同様に事例が増えており、野生動物をあたかも「人間の敵」のように扱う報道もある。予期せぬ遭遇は物的被害や駆除の必要性を生み、両者にとって望ましくない結果が生じてしまう。それを防ぐためには、適切な対策や予備知識をつけることが必要だ。また、人間の生活圏では放置果樹、生ゴミなどの誘引物の除去や里山の手入れ、農耕地の電気柵の設置・管理など、クマを寄せ付けない対応が求められている。

森を開発・利用してきた私たち人間が野生動物の生態を知り地道な取り組みを続けていくことによって、両者の共生を実現できるのではないだろうか。

ツキノワグマの1年の生活

ツキノワグマは2月ごろに出産し、12月ごろに冬眠する。山菜などのエサ探しで活発に活動する春から秋までは、特に遭遇する可能性が高い。



(出典:環境省「クマ類出没対応マニュアル」)

人間の住処への誘引防止方法

クマは人間の活動に伴って生じる食べ物(誘引物)につられて人里に下りてくる。私たち一人ひとりが生ゴミの処理、キャンプ場のゴミ管理、廃棄農作物の処理などを心がける必要がある。



木箱のエサを摂る器用なヒグマ



(筆者撮影 2019年8月 のほりべつクマ牧場)

参照・引用資料

- 大雪山国立公園連絡協議会 (<http://www.daisetsuzan.or.jp/>)
- 環境省, 「クマと共存するために」(<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5/docs5-kuma.pdf>)
- 環境省, 「実効性のあるこれからのクマ類の保護・管理のために」(<http://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-2c/index.html>)
- 環境省, 「クマと共存するために」(<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5/docs5-kuma.pdf>)
- 環境省, 「クマ類出没対応マニュアル」(https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/pdfs/manual_full.pdf)
- 農林水産省, 「野生動物による被害対策」(https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/taisaku_jissi_taisei/report_all_2.pdf)
- 日本野鳥の会(<https://www.wbsj.org/>)

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。

本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。株式会社サティスファクトリーは、本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。

また、本件に関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。